授 業 要 項（令和７年度分）

４　年　生

作業療法学科

授業科目名	臨床実習Ⅳ	（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　4年	時間数 単位数	720 16	授業形態	実習	必修･選択の別	必修

科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅲに引き続き、作業療法士の業務内容についての理解を深める。本科目は16週を2回に分けて実施する（Ⅳ－1：8週、Ⅳ－2：8週）。 臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、患者（利用者）の課題を解決する実践力を育成することを目的とする。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における作業療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する。 本実習科目における臨床実習施設において、臨床実習Ⅳ－1は病院または診療所とする。 臨床実習Ⅳ－2は、医療施設とする。
到達目標	臨床実習Ⅰ～Ⅲの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・得られた問題点の関連から妥当性のある目標設定ができる。 ・基本的な作業療法プログラムを立案し実施できる。 ・作業療法プログラムの効果を検証し必要に応じプログラムの修正ができる。 ・経験した一連の作業療法思考について経験症例カルテや経験症例レポートとして記録ができる。 ・地域包括ケアシステムおよび地域における作業療法士の役割を理解する。

回数	授業内容	担当
1	臨床実習Ⅳ－1 時間：360時間（8週間：40日間） 場所：医療施設において病院または診療所 内容：医療提供施設において、臨床実習指導者の指導･助言のもと、一連の作業療法の過程を学習する。臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、対象者の課題解決に向けて取り組む。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における作業療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（320時間）とし、5時間の家庭内学習（40時間）とする。	臨床実習 指導者 全専任教員
2	臨床実習Ⅳ－2 時間：360時間（8週間：40日間） 場所：医療施設 内容：医療提供施設において、臨床実習指導者の指導･助言のもと、一連の作業療法の過程を学習する。臨床実習Ⅰ～Ⅲの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、学習してきた知識および技術を統合し、対象者の課題解決に向けて取り組む。また、地域包括ケアシステムの理解および地域における作業療法士の役割を理解するため、訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションでの実習を1週間実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間（320時間）とし、5時間の家庭内学習（40時間）とする。	臨床実習 指導者 全専任教員

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 実習後のOSCE：40%、臨床実習後の提出課題内容20%　実習報告会の内容40%
教科書	島根リハビリテーション学院　作業療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	総合演習Ⅳ		（フリガナ） 担当教官名	全専任教員			
開講学期	前期・後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科　4年	時間数 単位数	90 3	授業 形態	演習	必修･選択 の別	必修
科目概要	・専門基礎科目および共通科目の内容をまとめ知識の整理と暗記を行う。 ・グループワークを通じて国家試験に応用できる知識を学修する。 ・学院模試・業者模試を活用して国家試験合格力を身につける。						
到達目標	国家試験に応用できる知識を学修し、国家試験合格力を身につける。						

回数	授業内容	担当
1~5	授業：国家試験対策 1 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
6~10	授業：国家試験対策 2 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
11~15	授業：国家試験対策 3 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
16~20	授業：国家試験対策 4 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
21~25	授業：国家試験対策 5 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
26~30	授業：国家試験対策 6 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
31~35	授業：国家試験対策 7 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
36~40	授業：国家試験対策 8 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員
41~45	授業：国家試験対策 9 事後学習（復習）グループワークで学習した内容、自己学習内容のまとめと暗記、暗記確認	作業療法学科教員

アクティブラーニング	e-larning 学習と講義を用いて、専門基礎分野および専門分野のすべての理解と暗記を図る。 1. 科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2. 分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3. 最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。
評価基準	卒業判定基準（卒業試験）に準ずる。
教科書	適宜資料配布
参考書	国試の達人（運動解剖生理学編、臨床医学編、理学療法編）アイペック 適宜資料配布
実務経験に関する記述	